

Z1000JのフレームにZ1000R用エンジンを搭載して、R風のライムグリーン外装をまとったのが僕のジェイソン号。少なくともエンジンがR用というのが小さなこだわりだが、実はZ1000R用クランクケースにボアリング済みのZ1000J用シリンダーとJ用シリンダーヘッドを組み合わせた完全なるチャンポン号。

由緒正しくないのは承知の上で購入しているのだから（その分ホムモノのRよりずっとお値打ちだったし）文句はないのだが、それだけに見かけのチグハク感はない。シリンダーとシリンダーヘッドを比較しても、シリンダーはつや消し気味でまだらに塗膜が剥離し、一方のシリンダーヘッドはそこそこツヤはあるものの、おそらく再塗装モノであろう。塗膜は質感がいまひとつ。そこで、せっかく分解した機会を利用してお色直しを行うことにした。

エンジンパーツに限らず、塗装を行う際には下地作りが最も重要だが、中でも凹凸部分だらけのシリンダーやヘッドは、古い塗膜の剥離が面倒なことで知られている。そこで今回は、再塗装のための剥離作業をサンドブラストの専門ショップである埼玉県八潮市のU2（ユーツー）に依頼した。フレームから外装パーツ、エンジンから足回りまであらゆるパーツのブラスト処理を手がけるU2には、個人ユーザー、バイクショップを問わず部品が運び込まれ、休むことなく処理が行われている。

エンジンパーツのブラスト処理には、アルミナを用いた塗装前処理とガラスビーズを用いた光沢処理加工、光沢仕上げながら輝きを押しさえ気味にした半光沢処理がある。シルバーエンジンならば光沢や半光沢処理の美しさも魅力だが、ジェイソン号は黒塗りなので角のこがったアルミナ研



カサカサでボロボロだった黒塗装をすっかり剥離して、キレイさっぱり生まれ変わったエンジンパーツ。これらは塗装前処理のためツヤ無しのザラザラ仕上げだが、ガラスビーズで光沢仕上げにすれば美しく輝く。Z1000LTDやボリス仕様なら銀エンジンもありだ。



## KAWASAKI Z1000J 1981 内燃機加工の前にブラストで古い塗膜を剥離。 あれ、これって順番逆でしたっけか？

ケムリ号の原因が判明して、謎の摩耗？ によってガバッと開ききったピストンリングを交換すれば万事OKといきたいところだが、実はオーバーサイズピストンとリングを先行入手していたため、内燃機屋さんのお世話になることに。だったら外観もリペアしようとブラスト専門店でカサカサのブラック塗膜を剥離してもらったが、実は順番が逆だったりして。

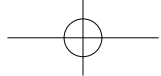
磨剤で荒くザラついた仕上がりになる塗装前処理をオーダー。ちなみに素材表面を荒らすことで、塗料の食いつきが良くなることも表面積が増えて冷却効果を高めるメリットが発生する。

サンドペーパーや剥離剤などと異なり、砂状の研磨剤を高い空気圧で連続的に素材に当てるサンドブラストでは、摺動部や回転部分などブラスト処理を行わない（研磨剤を当てたくない）部分のマスキングが重要だ。U2ではブラスト前のマスキングは依頼者自身で行っても、U2にオーダーしても良いシステムになっていて、自分でマスキングした方が費用的には安く抑えられる。使用する材料はホームセンターで購入できる布ガムテープやティッシュペーパーといった一般的なもののだが、プロが用いる強力なブラスト設備に耐えうるマスキングを行うには相応のコツとテクニックが必要で、中途半端なマスキングでは結局やり直しになる例も多いとのこと。

実は今回のエンジンパーツも、事前にマスキングしておいたものの、結局8割方やり直してもらった羽目になった。事前に脱脂を完璧に行い、接着面積が稼げないシリンダーヘッド上面に貼りに貼りに付けるかが成否の分け目となるが、ちょっとやそつとで身に付くワザではないと実感。

入念なマスキング後の剥離作業は、直圧式と呼ばれる高効率なブラスト装置を用いるだけあってスピーディ。シリンダーヘッドカバーと薄いフィンが立つシリンダーや複雑な形状のシリンダーヘッドの3点セットで、アルミ地肌が露出するまでに要した時間はわずか1時間ほど。

さらに今回は、燃焼室や排気ポート周辺に堆積したカーボン汚れをウェットブラストで除去してもらった。U2が新たに



10 非常に細かい研磨剤はパーツの奥深い場所まで入り込み、乾燥するとその場で固まり、一度固まると取れづらくなる。そこで水気が切れないうちに水道水で入念に洗浄する。



11 鉄素材のバルブシートやバルブガイドは、水分に触れることであっという間に赤くさび始める。洗浄が終わったら手早くエアブローで水気を飛ばし、防錆潤滑剤をスプレーする。



12 「塗装前の下地処理を行うなら、最初に内燃機加工を済ませてから依頼されると、プラスト後のパーツの汚れが少なく済みますね。また、燃焼室の洗浄でウェットプラストを利用されるなら、ウェットプラストの後でマスキングしてサンドプラストした方が、やはり素材の汚れが少ないです」と堀之内蔵人主任。残念ながら、それは完全に逆の順序で仕事を依頼してしまったようだ……。



07 U2に導入されたウェットプラスト機は、サンドプラスト機でおなじみの不二製作所のもので、デザインはサンドプラスト機に似たものだが、大量の水を使うため各部の防水処理は万全



08 水と研磨剤を混合噴射するウェットプラストの研磨剤は、粉末段階でもこれで本当に研磨できるの？と思えるほど微粒。研磨という表面のならし洗浄向けだ。



09 サンドプラストの経験はあるがウェットプラストはほぼ未経験なので、途中で交代してもらった。ホースの水を高圧で吹き付けているような感覚で研磨している実感は全くない。

エンジン丸ごと合はもろろん、フレームも余裕で入る。ラストキヤレ、トド塗装を剥離。キャブレターの容積が大きく、粉塵回収機能も高いので、常に内部がはつきり見える。



04



01

一部のスタッドボルトはシリンダーの外側に露出するため、マスキングには注意が必要。シリンダー内に入れるティッシュペーパーは、飛び込んだ研磨剤の勢いを減衰するためのもの。



05

奥行きが深いプラグホール部分も含めて、わずか25分ほどで完全剥離が完了。ユーザーではエンジン丸ごとプラストも行うが、分解状態にした方が個々の部品の仕上がりは良いとのこと。



06

サンドプラストによって塗装部分の下地は完璧になったが、燃焼室のカーボン汚れが余計気になる。そこでウェットプラストのクリーニング作用でリフレッシュを行うことに。



02

マスキング作業は繊細でありながらスピーディ。デザインカッターを駆使して形状が複雑な部分でも布ガムテープを見事にカットする。



03

持ち込んだ3点には、あらかじめ自分なりのマスキングを施してあったがほぼ却下されてしまった。しかしながらプロの仕事を見てしまうと、削がされたのも納得できる。

## キレイになって初めて分かる真実 Zではありがちと慰められました……。

remember zeppan bikes z & zeppan life

KAWASAKI Z1000J 1981

取材協力 / U2(ユーザー) Phone048-921-8087  
http://www32.ocn.ne.jp/~u2/

初めてのの方はなんと半額!!  
絶版バイク持参のサンメカに  
スペシャルサービスあります。

フレーム、エンジン、ホイールなど、バイクパーツのサンドプラスト処理ならなんでもおまかせのユーザーは、10年以上にわたる豊富な経験で素材に応じた最高の仕上がりでユーザーの期待に応えてくれる。そんなユーザーでは、以下の条件をクリアした絶版バイク読者にスペシャルサービスを実施中。

その1・初めて作業を依頼する人  
その2・本誌を持参すること。  
宅配便を利用する際はこのページのコピーを同封する

上記の条件を満たせば、代金(サンドプラスト加工のみ)を半額!にしてくれるのだ。期間は平成22年末まで。分解中のバイクやパーツがあるというユーザーは、このチャンスを利用してプラストの効能を実感しよう。

只野勇次代表(中央)を中心にバイクや工業系のプラストを手がけるユーザーは、下地や表面処理加工のエキスパート。メンテナンスやレストアの際には是非活用したい。



サンドプラストによる塗装剥離とともに、ウェットプラストで見えるほどキレイになった燃焼室に大喜びしたのもつかの間#2、#3のプラグ部から排気側バルブシートに向かって黒い筋状の何かが。改めて目を凝らせば、明らかなクラックである。Z1 / Z2時代よりバルブサイズが大きくなり、Bプラグのネジと接近しすぎたのが原因のようで、同様のダメージを受けているJヘッドは少なくないらしい。さらに#3、#4はプラグのネジ部にヘリサート加工も施されていた。このヘッドを使い続けて良いものかどうか……。

導入したのは日本のプラスト機器トップメーカーである不二製作所の新型で、既存品に比べてサイズの大きな素材を効率的に処理できる。研磨剤と水を混合して噴射するウェットプラストには、加工物の温度を上げることなく研磨でき、サンドプラストより粒度が細かい研磨剤が使用できるというメリットがある。したがって、バルブシートやバルブガイド、ピストンなど大きく削ると問題のあるパーツにも安心して利用できるのだ。

しかしながら、美しく仕上がったシリンダーヘッドに大満足しながら燃焼室に注目している最中に発見してしまったのだ。プラグホールから排気側のバルブシートに伸びるクラックを……。それも2カ所。さらに付け加えるなら、2気筒分のプラグ穴にはヘリサートコイルも埋め込まれていた。世の中には見えないまま、知らないままの方が幸せだってこと、たくさんありますよねえ。